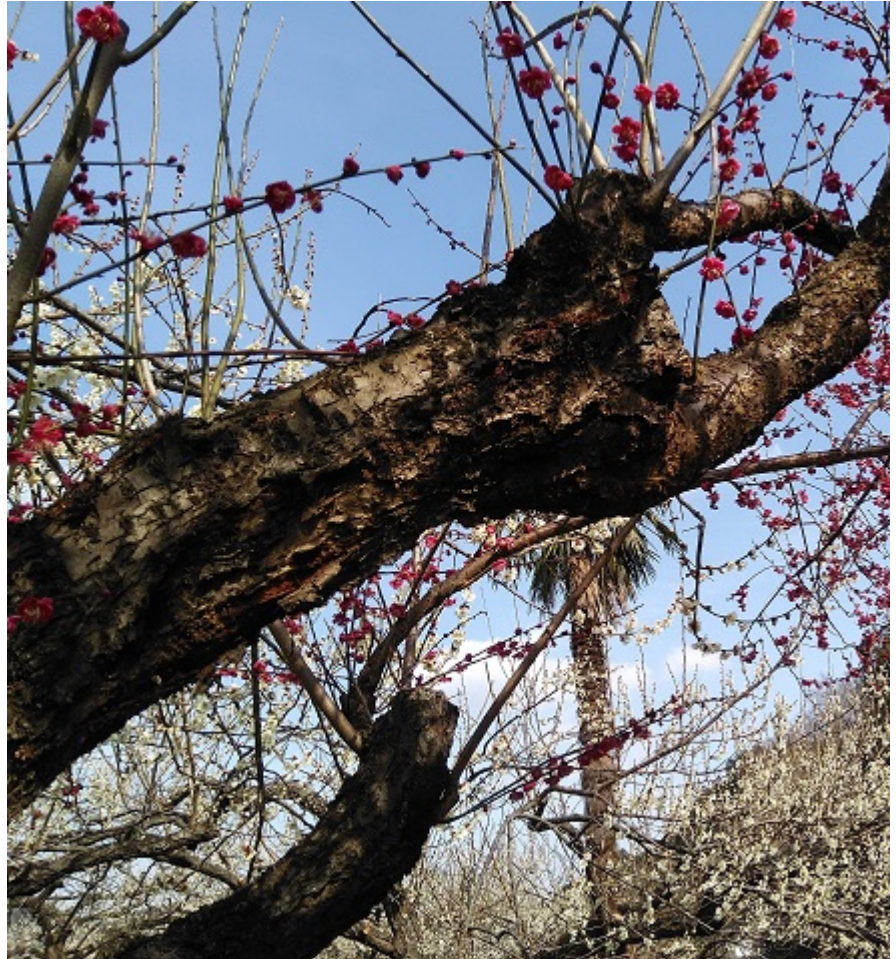




Suigara-yama_OoazaHyo(Kyoko_

2020-03-08

日々の近くで梅が咲くー越生梅林梅祭りなど



Navigation

[Previous 月](#)

[Next 月](#)

[Today](#)

[Archives](#)

[Admin Area](#)

Categories

[All](#)

[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』](#) 清水鱗造

●[「週刊読書人」詩時評 一九九二-一九九三年 清水鱗造批評集 第一分冊](#)

Search

コロナウイルスの影響が眼に見えてきている。マスクや消毒用ア
はもとより、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチン
も食材での影響もある。スーパーやドラッグストアなどでは開店前
のほかにももっと。近所のスーパーでは、チラシの新聞折り込みを
掲載商品の販売を約束できないからということだった。

イベントの中止、公共施設や娯楽施設の休園、休館、バイト先も
色々と影響が出ている。日用品配達の増加、仕事用の車や自転車の
品が中国製）など。飲食宿泊関連の売り上げも激減している。

こういうことも含めてコロナウイルスなのだと思います。知
ではない影響として見えない姿をみせつける、それが怖さでもある
数日前、買い物の折り、品薄だったり、売り切れ、お一人様一点
の状況を指してのことだろう、老婦人が「まるでわたしが子どもの
といていた。年齢から推測して、おそらく戦後まもない頃のこと
こんな折、あちこちで、すさんだ状況を聞いたり目撃するが、そ
があっけらかんとしているのが、どこかほっとするものだった。

そして、ひな祭りの3月3日。いつも行くスーパーでは、祝うと
なかった。そこに併設されたお花屋さんがある。季節ごと、花たち

ていて、見るのを楽しみにしている（夏にはメダカも登場したりす
桃の節句用に切り花が売られている。

そこでまた別の老婦人が桃の花と、菜の花、ユキヤナギなどの、
セットの花束を手に入れているのが眼に入った。自分のためかもしれ
んのためかもしれない。店員さんと話している表情が華やいでいる
それらすべて、ひな祭りの日、桃の花たちを購入しようとしている
に明るさをもらった。「あかりをつけましょ、ぼんぼりに」。

売り切れでスカスカになった棚たちは連日続く。興味深い記事を
だ。所有することで、見えないウィルスに対抗できていると錯覚し
そして買い占めなどを行っている人たちは、パーセンテージ的には低
きやすいだけなのだ。

別の小さなスーパーでは、ボックスティッシュが普通に売られて
がほかのお客さんに「さっきまで、トイレットペーパーもあったん
「そうなの～」と淡々と話している。なんとなく野菜がたまたま品
な感じで、これもどこかほっとした。日常的で。

買い占めを肯定する気持ちは毛頭ないが、見えないものの恐怖か
ひとつというのは腑に落ちた。日常的なことが平々凡々とあること
切に思っている、それと根っこは通じるだろうから。買い占めるこ
砦を作ろうとしているのだろう。自分勝手な砦だけれども。スーパ
は、桃の節句を終えて、そろそろ桜たちを咲かせている。そしてチ



Login

ログインID:

パスワード:

☐ このPCを他
の人と共用する

ログイン

Powered by



元号令和は万葉集の梅花の歌の序文から引用されました

越生梅林 梅まつり

令和2年
2/15(土) ▶ 3/22(日)
午前8時30分～午後4時
※期間は開花状況により変更になることがあります。

主催 越生町・一般社団法人越生町観光協会

入園料 300円 駐車料金 500円
※中学生以上 ※普通乗用車
ミニSL200円(3歳未満は無料) 土・日・祝日に運行

問い合わせ 一般社団法人越生町観光協会
☎ 049-292-1451

◆イベント情報◆

2月15日(土) 和太鼓(武蔵越生高等学校 青組)	3月 7日(土) 川越少年音楽祭 正屋
2月16日(日) 鼓太鼓太鼓 ココナッツ(歌の演奏)	3月 8日(日) アフリカン太鼓 トトカカ 越生町南権の会(演り)
2月23日(日) 越生獅子(花道連)	川越少年音楽祭 正屋 モデル屋敷会
北坂戸フォーミング倶楽部	3月14日(土) 和太鼓(武蔵越生高等学校 青組)
2月29日(土) 新こども大学 ちんどんクラブ 越生の里を回る会	さくらでできライブ (さくらでできミュージックオフィス)
3月 1日(日) 越生獅子(許可獅子連)	3月15日(日) 越生獅子(東組獅子連)
越生獅子舞(南園神社獅子舞保存会)	さとと太鼓
3月 7日(土) ゆるキャラ大集合 南園王すだれ	3月22日(日) ロス・アウキス(アンデス音楽)

池袋から
越生まで
約63分
(池袋駅有楽線乗車)

越生への山道さくら道

そんななか、いや、少しでも話は遡る。二月二十九日、三月になの梅まつり（二〇二〇年二月十五日―三月二十二日）に出かけてき。今年は暖冬の影響で、春の訪れが早いようだ。桜も例年よりも早の近所の梅たちももはや満開。越生はうちよりもほんの少し北にあし開花時期が遅い。それでも出かける前に調べたら、ほぼ満開に近毎年のように出かけている。これは日常のなかのお祭りだけれど、どう意味で日常なのかもしれない。毎年、梅干しを買っている。

前日までは雨だったが、天気はおおむね晴れ。梅祭り会場でのイだったが、梅祭り自体は行われていた。車で出かけたのだが、いつも若干道が空いていた。梅祭り会場も。例年、会場から遠い駐車場だが、今年が一番近い、第一駐車場に停められた。

今年はそれほど訪れる人が少ないのだ。梅農家の方々、観光の打
ろう。おとずれるわたしたちにとっては非日常だが、梅農家の方々

しい梅たち。梅はほぼ満開。足元にはいつものように福寿草、ヒメ
空から落ちてきたような、うすい青のオオイヌノフグリたち。春が
れによって、陽射しの中でやわらかく出迎えてくれている。





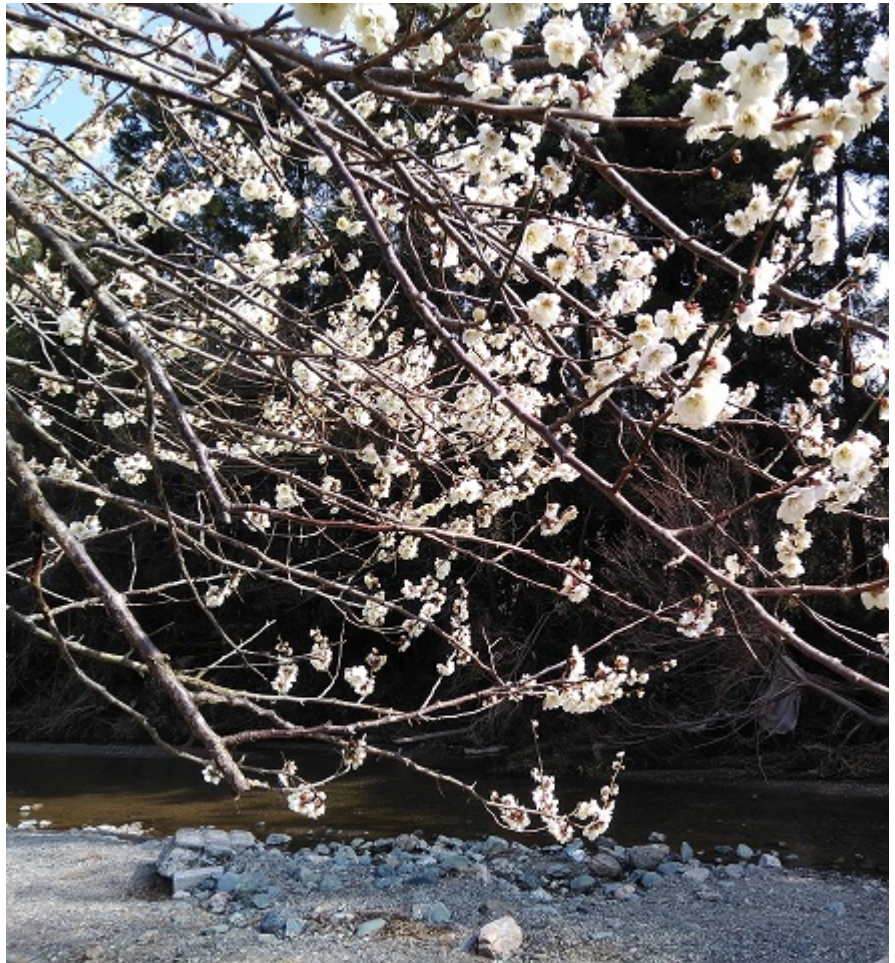
梅林の梅の木の低い枝たちが空とわたしたちの媒介となっているの梅はやさしい。空の青さひきつれた、どこか温もりのある白い花甘い香り。折れた梅の幹が横たわっている。あとでガイドの方が解たまたま聞いたのだが、去年の台風で倒れてしまったようだ。そのしているところから、あらたに根を張ったらしく、幹の先に梅の花を命たちに脱帽する。



陽射しが感じられるなか、越辺川（おっぺがわ）のきれいな水のか、敷物をしいて、作ってきたサンドイッチで、梅見しながら昼食食をとりながら梅見をする。







河原で石投げをする子どもと父親。ひゅん、ひゅん、飛ぶ石たち。とはいえない。たどたどしい渡りが、それでもやさしい。

別の子ども。亀だ！ といっている。亀がいるのかしらと思った。河原の大きな石を亀に見立てているようだ。「ぼくは亀に。よ」、石にまたがって、その姿をスマホで写真を撮ろうとしている。示している。

梅のほぼ満開、穏やかな、春の日々だ。

売店で、梅こぶ茶を配ってくれているところがある。これも例年、ぜか梅干しはあまり多く置いていないので、今年は地元で作ったゆかり地のものを調合した七味唐辛子、梅のお菓子などを購入する。しを買った。越生で売っている梅干しは、越生で昔からある品種の「べに梅」、小田原原産の「十郎」、和歌山原産の「南高」がある。は、たしかに梅林にも沢山生えていて、なじみがあったので、その「郎」を買った。

ちなみに越生の梅干しは、すっぱい部類だ。うちはすっぱいほう。それも越生の梅にひかれる理由になっている。いや、昔から食べてし、越生は子どもの頃からなじみがあるから、ということが先の。梅干しを求めて、梅をかんじて、そのあとに、ここからほどちかいった。ここもなじみがあるところだ。子どもの頃に、家族できた林の側を流れる越辺川の支流、三滝川に落ちる三つの滝、上から「少し下流の「天狗滝」、これら三つをあわせて黒山三滝と称してい

天狗滝は、去年の台風の影響なのだろうか、立ち入り禁止で遠巻とができなかったが、女滝と男滝には、行くことができた。最初にてっぺんに男滝。けっして大きな滝ではない、長さも短い、けれど

時に見ることができるからだろうか、それだけではないだろうが、
れたような、力を感じるのだった。滝のまわりの森はまだ春らしい
季節が冬に戻ったようだ。夏はきっと、あたりがひんやりとして、
なるのだろう。箱根の森あたりを思い出した。

三滝のあたりでそろそろ夕刻、午後四時ぐらいだった。またそこ
き、日常にもどってゆく。

ネコヤナギは、つぼみであることをやめ、衣を脱いだように花を
今年は桜の開花も早いそうだ。

10:04:19 - umikyon - No comments